

新聞を上手に読むコツ



新聞を上手に読むにはコツがあります。それは紙面のレイアウトや見出し、記事の構成など、新聞独自の仕組みを知ったうえで読むことです。



面建て

記事の内容によって、総合、政治、経済、国際、社会、文化、スポーツなど掲載ページが決まっています。構成を知れば、新聞がより読みやすくなります。

社説

新聞社の主張を展開する社説。遠い存在と思われがちですが、実は読みやすくできています。テーマごとの概要がバランスよく過不足ない情報としてまとまっているのでわかりやすい。正確なデータは資料としても役立ちます。米軍基地や原発事故などテーマによっては、その地元の新聞を含め、各紙の主張を読み比べてはいかがでしょうか。

コラム

旬の話題を取り上げ独自の視点で世相を切り取ります。一般記事とは異なる語り口で読みやすくなっています。

版

編集の締め切り時間の違いをあらわします。ここが数字の場合は数字が大きいほど締め切りが遅く、最新のニュースが入っています。

トップ

その日最も重要と判断した記事が、1面トップ（紙面の右上）になります。ニュースの大きさを価値判断し、見出しの大きさや配置が決められます。

見出し

10字程度の短い言葉で記事の中身を説明します。大事なニュースほど見出しも大きい。忙しいときは見出しを見ていくだけで世の中のことがわかります。

記事

新聞記事は大事なことから書いていくのが基本です。最初の段落を読めば、ニュースの概要がわかります。大きなニュースの場合は、「前文（リード）」を目立つ形にレイアウトしています。

インデックス

注目記事と、その掲載ページを紹介。各分野の重要ニュースが一目でわかります。

1本の記事ができるまでの長い道のり

記者が自ら現場に向き、当事者や関係者から直接話を聞く。情報の裏付けを取り、ニュースの価値を判断する。これまでに培ってきた人脈、真相を聞き出すテクニック、各地にいる取材スタッフ、新聞社が長年蓄えてきた膨大なデータなどを駆使して取材を進め、言葉を厳選しながら記事を書く。その記事は、経験豊富な「デスク」と呼ばれる上司や、校正・校閲の専門家によるチェックを受けて、初めて世に出る。報道される。これが新聞記事です。だから信頼されるのです。

ネットの良さと紙の良さ

ネットの利便さは誰もが実感しています。ニュースを伝えるメディアとしては、新聞やテレビより速報性に優れ、より多くの情報量を載せることができます。新聞社自身もネットにニュースを提供する一方、有料の電子版サービスを始めている新聞社もあります。ネット上のニュースの大半は、新聞社の報道がもとになっています。

もちろん、紙の新聞の良さも忘れてはなりません。

PC、スマホで、文章を次々に動かして表示させることを「スクロール」といいますね。この「スクロール」という英語の意味は「巻き物」あるいは「巻くこと」です。実は、電子機器で文章を読むのは、巻き物を広げることと同じことなのです。でも巻き物は文章を順番にしか読めません。

これを克服するために生み出されたのが、紙を裁断してつづというアイデアで、今の本や新聞のカタチです。1枚1枚独立した紙で構成されているため、どこからでも開くことができ、行ったり来たりしながら参照して読めるようになりました。

いつでも どこでも いつまでも

紙の新聞にはスイッチがありません。読むのに電気が要らないからです。いつでも、どこでも読むことができます。カバンに本をしのばせるように、新聞を入れておく。そうすれば、日々、折々の時間に、国内外の情勢や社会の片隅で起きた出来事、有益な情報に出合えます。数日たって広げて、思いも寄らない記事に幸せを感じるかもしれません。

紙の新聞で読んだ記事は、意外と心に残ります。紙の新聞には手触りがあり、表情があるからです。それに触れながら読むことで、言葉が心に染み込んでいきます。

紙の新聞には、大きさがあります。ニュースの重大さを、活字や記事の大きさと伝えることができます。大きなニュースには大きな見出しがつかます。大きいニュースには写真もたくさん使います。視覚的に訴えることで、ニュースが心に深く刻まれます。

紙の新聞は、消えませんが、今から100年前のことを調べるのに紙の新聞ほど優れたメディアはありません。その日何があったか。日付まで特定して、さかのぼることができます。ネットでは、古いニュースはどんどん優先順位が下がっていきます。記録としての絶対的な安心感は紙が勝る部分です。

紙の新聞は、消えませんが、いま私たちが何をして、どこに向かっているのか。紙の新聞は日々、記録していきます。それを、将来の日本に残していきたいと思います。

新聞は役に立ちます。あなたの仕事に。必ず。



1 お客さまが新聞を読んでいるのに、あなたは読んでいない!?



きょうお会いするお客さまは何に関心があるのでしょうか。あなたが薦める商品のこと、だけではないはず。昨日のプロ野球の結果のこと、政治のこと、事件のこと、天気のこと。お客さまの口からどんな話題が飛び出てきても、毎朝、新聞に目を通していけば、きっと話題についていけます。「社会人なんだから、新聞ぐらい読みなさいよ」とお客さまに言われる前に……。

2 何より、自分が働く業界のことを知っておかないと。✦



今朝の新聞にあなたが勤める会社のことは載っていませんでしたか？ 取引先の会社の人事を見落とすわけにはいかないし、ライバル企業が新商品の広告を出しているかもしれません。そう、社会人にとって情報は最強の武器なのです。地元の新聞が伝える身近な業界ネタこそ「使える情報」なんです。業界の中で、新聞を読んでいないのはあなただけ、かもしれません。

3 まずは1面記事の見出しだけでも読んでみましょう。



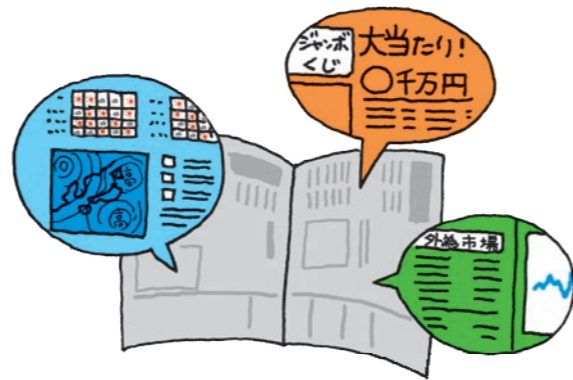
その日の新聞が読者に伝えたい最大のニュースが1面トップ記事です。ちょっと長い記事だから、見出しも多いときには5本近く付いているときがあります。でも、見出しを読むだけでも記事の概要はつかめます。そのまま、1面に載っている3~5本の記事すべての見出しを一気に読んでしまいましょう。わずか30秒。あなたのことを「世間知らず」と言う人は、もういません。

4 次は社会面？ スポーツ面でも、テレビ番組面でもかまいません。



1面に目を通した後は、好きなページに進んでください。プロ野球やJリーグが好きなのはスポーツ面（運動面とも言います）を開いてみましょう。スマホの速報だけでは知ることができなかった選手やチームの裏話が出ています。社会面の四コマ漫画が好きですか？ もちろんOKです！ でも、社会人なんですから、まずは1面トップ記事の見出しを読んでから、にしませんか。

5 天気予報も、宝くじの結果も、為替も載っているんだね。



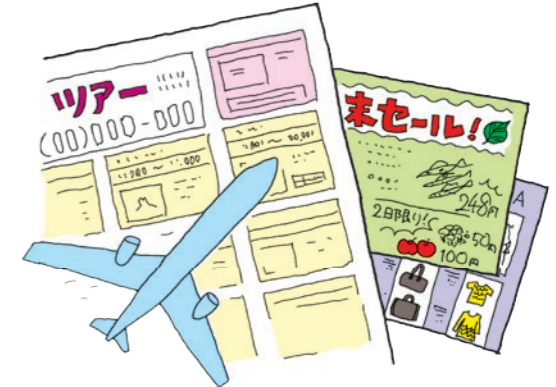
為替は「かわせ」と読みます。ちなみに、外為は「がいため」です。そんなことはともかく、新聞にはあなたが知りたいことの多くが載っています。天気「予報」もありますが、天気の「結果」も載っています。旬の話題に関する意見が載った読者投稿欄もお勧め。他人の意見を踏まえて自分の考えを整理する習慣を付ければ、企画書作りに役立ちますよ。

6 こんなスクラップの仕方があったんだ!



新聞記事をスクラップしましょう。と言っても、はさみやカッターは必要ありません。気に入った記事、気になった記事を、スマホのカメラで撮ってしまえばいいんです。そして、ときどき記事を読み返してみる。それだけで、あなたは一目置かれる存在になるでしょう。だって、ライバルたちはネットの「1行速報」でしかニュースを知らないのだから。泣ける記事も、笑えるネタも、料理のレシピも、速写でスクラップ！

7 記事より広告に目がとまってしまう人も多いよね。



新聞広告はあなたの生活を豊かにする大切な情報源です。食品、書籍、化粧品、車、不動産、イベント、旅行、求人……広告は時代を映し出す鏡とも言われます。あらゆる分野の広告に、瞬時に触れることができるのも新聞の強みです。そして、新聞購読者の多くが楽しみにしている広告が、そう、「折り込みチラシ」です。近所のスーパーのチラシに出ていた特売情報をお客さまに教えてあげようかな。